

## 2015年度 最終成果報告会



2016年3月5日(土)、本年度(第12期)プロジェクトの報告会を開催します。

学生のみなさん、OP (Old Project-member) のみなさん、ぜひお誘い合わせてご来場ください。

## 2016年度 プロジェクト募集!



ローム記念館プロジェクトにチャレンジしませんか?

次年度プロジェクトエントリーについての情報は、Webサイトまたは館内に設置の募集要領をご覧ください。学生・生徒チームでのエントリーはもちろん、企業・団体からのテーマ提案もお待ちしております。くわしくは事務局までお問合せください。

## 編集後記

私たちは日々大小さまざまな岐路に立たされ、その都度選択し、自分の進む先を決める。

正しい選択とは何か。一見二択に見える選択肢も、実は細かく枝分かれしていたり、見方を変えれば答えはひとつだったりする。一つしか見えない方向性も、いつ決めるかで異なる結果になるし、知らず知らずに楽な方を選んでしまっていることもある。振り返ってみると、日々の選択の中で、これは間違いだったと思うとき、正しい選択肢を選べなかったというより、選ぶべき選択肢を見つけられていなかった、ということもあるものだ。

1年間のプロジェクトでも、メンバーとして、また、チームとしてさまざまな場面で岐路に立たされる。自分はどうか、メンバーはどうか、チームとしてどうか、交渉相手はどうか、連携先はどうか…。一人ひとりが、現在置かれている状況をそれぞれの視点で見直し、あらゆる選択肢を洗い出し、最善の選択について考えることができたかどうかが大切だ。

実は、選んだ選択肢の正しさというより、チームとして納得できる選択肢を見つけ、選ぼうとすることへのこだわりの強さが、プロジェクト成功のカギなのではないだろうか。

(同志社ローム記念館プロジェクトコーディネーター 西村ひろみ)



## 表紙の人

にしざわ ともみ  
西澤 友美さん

同志社大学生命医科学部  
医工学科3年次生  
「ROBOX」所属

先輩たちの背中を見ながらの活動も今年で3年目。大所帯のプロジェクトだからこそ、「ひとりひとりと話すこと」にこだわる。進捗状況の確認だけでなく、メンバーそれぞれを良く知ること、その人に合った作業、役割をみつめてあげたい。全体を把握してみんなが溶け込める場作りをするのが自分の役割だと語る。

写真はステップアップキャンプでの活動のようす。

## プロジェクト・サポート 募金のお願い

学校法人同志社 総長 大谷 實  
理事長 水谷 誠

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまでも現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力しております。

この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみなさまからご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。

募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。

同志社ローム記念館プロジェクト・レポート

# DIR

[ディー・アール]

Vol.24  
October 2015

プロジェクトへのこだわり  
2015年度 プロジェクト活動レポート



## ステップアップキャンプ 8月22日(土)～23日(日)

今年も同志社びわこリトリートセンターにて、毎年恒例の「ステップアップキャンプ」を開催した。メンバーのスキルアップ、プロジェクト内外での交流を主な目的としたイベントだ。今年「自分の考えを相手に伝える」「相手の考えを理解し、伝える」をテーマに、スタジオZeroが企画・運営。過去最大の93名が参加した。

1日目はくじ引きで決まったプロジェクト混合チームで活動。まずは、止まったマスに書かれたテーマで自己紹介をする「すざろくトーク」でアイスブレイク。スタンダードな質問から、「もしもタイムスリップできたら」「無人島になりに持って行く?」といったユニークな質問まで、メンバーが楽しみながらお互いを知ることのできる工夫が盛り込まれていた。

与えられたヒントをさまざまな視点で捉え、答えとなるキーワードを導き出す「連想ゲーム」、クライアントや予算などの条件をもとに新しい食品を企画する「商品企画ワークショップ」が行われ、OP

チームの参加もあり、おおいに盛り上がった。夜のバーベキュー、交流会では、学生、OP、委員の先生方を交えて楽しい時間を過ごした。

2日目はプロジェクト単位のチームに分かれ、くじで引いた「テーマ」と「キーワード」で4コマまんがを完成させる「まんがりレー」からスタート。前のコマまでのストーリーの流れを考慮しつつ、相手が納得できるような展開を考えねばならず、朝一番、頭を目覚めさせるワークだった。

続いて、適切なことば選びのセンスが問われる「絵描き歌ゲーム」、必要な情報を聞き取り正確に伝えるといった、メンバー間でのコミュニケーションが鍵となる「Mapping Escape!!」を行い午前中のワークは終了。午後からはクローバー祭の企画発表を行い、各プロジェクトが活動をアピールした。今後の活動スケジュールや目標の再確認、振り返りもでき、秋からの活動もより活発になることが期待できそうだ。



# プロジェクトへのこだわり

第12期のプロジェクトが始動して半年。今年は9チーム、プロジェクトメンバーは総勢200人を超える。最初は不安げにやっていた1年生メンバーも、今ではしっかりルームに腰を据え活動をしている。とにかく何かやりたい! そう思って参加したメンバーも、今はそれぞれにタスクを抱え、活動の一部を担っている。

- 目の中のタスクの先に何かがあるかを見据え、どこまで思いを馳せ、どこまでイメージを持てるか。
- イメージを持つためにどれだけ情報を集めるか。
- 自分のアタマの中をメンバーに伝えるためにどれだけ言葉を尽くせるか。
- どこまでイメージ通りに仕上げ持ち寄るか。

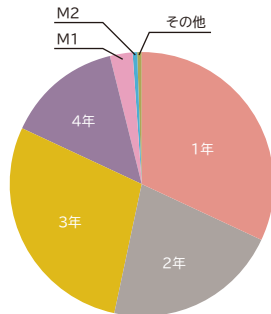
プロジェクトへのこだわりが高い成果を生み、自分自身の成長も約束してくれる。

## 2015年度プロジェクトメンバー数

### 学年別

1年	70
2年	47
3年	63
4年	31
M1	6
M2	1
その他	1

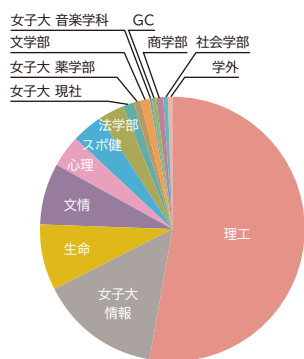
合計 219名



### 学部別

理工学部	116
女子大 情報メディア学科	32
生命医科学部	18
文化情報学部	16
心理学部	9
スポーツ健康科学部	8
法学部	7
女子大 現代社会学部	3
女子大 薬学部	2
文学部	2
商学部	2
女子大 音楽学科	1
グローバルコミュニケーション学部	1
社会学部	1
学外	1

合計 219名





いよいよ  
スタート

### プレ・プロ<秋> 「新しい『文具』の企画 ～企画立案の極意と実践～」

10/6～1/12 毎週火曜日 17:00～18:30

昨年度スタートし、春と秋の年2回実施している「プレ・プロジェクト」も4期目に突入。3ヶ月という限られた期間で主体的に取り組み、プロジェクト実施に必要なスキルやマインドを実践的に身に付けてもらうことがねらいだ。

今回のプレ・プロジェクト<秋>のテーマは、「新しい『文具』の企画」。昨年度も実施し、文系・理系問わず多くのメンバーが参加したプログラムだ。商品企画に関する知識やノウハウを学び、期間の後半から、各チームが文具を企画・試作する。

昨年度は企業主催のアイデアコンテストに出展し、惜しくも受賞は逃した。今回は文具メーカーの協力を得て展開。前回のアイデアを上回る、ユニークで魅力的な文具が生まれることに期待したい。

活動  
レポート

### プレ・プロ<春> 「『同志社校友会』プロモーション ～宣伝広告活動の企画と実践～」

4/24～7/10 毎週金曜日 18:30～20:00



2015年春のプレ・プロジェクトでは、同志社の卒業生団体「同志社校友会」のプロモーションをテーマに、在学生向けの映像の制作に取り組んだ。

講師の櫻井篤史先生(ファインダーズ・ビューロー代表)より、広告業界の概要や広告表現の方法、さらに実際にビデオカメラを用いて撮影のノウハウなどのレクチャーを受け、今回のプロモーションの対象となる「同志社校友会」について、



取材・インタビューを行った。メンバーは4チームに分か

れ、それぞれが企画した映像テーマで構成台本を作成。報道番組風の構成を企画したチームは、ローム記念館内にあるマルチメディアラウンジ(MML)のスタジオを利用し、アナウンサー役、コメンテーター役、カメラ担当などの役割に分かれ番組の収録を行った。また、同志社校友会の事務局まで赴き取材を行うチーム、キャンパス内の学生に突撃インタビューを行うチームも見られた。

期間の後半は、主にMMLのパソコンを使って映像の編集作業で、プロナレーターの内田寿子様にお越しいただき、各チームが作成したナレーションの収録も行った。



講義外の時間も活用し、MMLの機材やスタジオを借りて積極的に作業をすすめるチームが多く見られた。

プログラムの最終回では、完成した各チームの作品の合評会を行った。メンバーからは、「どのように編集するべきかは、誰に何を伝えたいかによってわかった」「1つ1つは簡単に思えても、実際にやってみると思いのほか難しく、作ることの楽しさと難しさを学べた」「時間が短い中、メンバー同士で協力し合えたからこそ仕上げることができたと思う」といったコメントがあり、限られた時間の中で企画をまとめ作品を完成させる、という一つの「プロジェクト」にチームで取り組むことの楽しさや喜びを感じられたようだ。今後、これらの作品は同志社校友会が主催する行事などでの活用も検討されている。

## 2015年度 プロジェクト活動レポート

プロジェクト期間も半分を過ぎ、メンバーもそれぞれに忙しい日々を過ごしている。授業がある時には課題やレポート、夏休みにはアルバイトやインターンシップにレジャーの誘惑…。プロジェクト活動は常に別の何かとせめぎあいながらもメンバーの生活の中で一定の度合いを占めている。1年間という区切りがあるからこそ、ぐっと少し無理をして走りきれることもある。自分のこだわりを貫き通すことも、自分を試すこともできる。目標を達成し、納得できる成果をあげるべくがんばる各プロジェクトの近況をお伝えしたい。



Pick  
up!

### ウェイクアッププログラム

メンバーをプロジェクトに目覚めさせる。そのためのスタッフの目覚めは相当早い。今回の企画は、2015年度プロジェクトの運営について12月から重ねたスタジオZeroの会議の中から生まれたもの。中核となる新3年生メンバーで運営チームを結成し、3つの企画を担当した。「メンバーにはプロジェクト全体像をまずつかんでもらいたい」「チームづくりに貢献したい」「高め合える環境を作りたい」そんな思いから生まれたワークショップ。スタジオZeroが自分たちなりにプロジェクトに寄り添うスタイルを模索した。

5月12日(火)、14日(木)  
プロジェクトガイダンス<参加:114名>

スタジオZeroが制作した「館内施設紹介」、「活動費の運用ルール」、「メールマナー」、「活動サポート体制」に関するムービーを見ながら、プロジェクト活動を進める上でのベースづくりを行った。



5月19日(火)  
ミーティングワークショップ<参加:61名>

プロジェクト活動に欠かせない「会議」。各プロジェクトが会議における独自のルールを考え、発表しあった。



5月26日(火)  
プロジェクト交流会<参加:90名>

プロジェクトポスターの発表会からスタート。プロジェクトの枠を越えて「お疲れ様!」と言い合える関係づくりをめざして企画したゲームでおおいに盛り上がった。



5月13日(水)  
会計責任者連絡会

## 新商品開発プロジェクト <sup>フラップ</sup> FLap

### 努力が自信と新商品につながる

メンバーが活動を通して成長できるように「Flap=はばたく」と名づけられたこのプロジェクト、レッグファッションの新商品開発を目指して春から走り続けている。2016年度春夏商品企画提案の機会をいただいた7月2日、3チームの代表がグンゼ株式会社本社へ赴き、それぞれの企画案を発表した(写真左上)。チームづくりと並行して、マーケティングを基礎から学び、商品企画を進める、初めてづくしでめまぐるしく過ぎていった3ヶ月。先日開かれた商品展示会では、FLapの活動が紹介されたブースも設置された(写真中央)。リーダーの高橋美瑛さん(同志社女子大学学芸学部3年次生)は、「この半年でチームの中でそれぞれ自分ができること、すべきことを見つけられるようになった。初めてプロジェクトに関わるメンバーも多かったが、全員の努力で企画提案までこぎつけることができたと思う。しかし今回、企画案そのままの採用には至らなかった。提案のチャンスはもう一回、次回こそは、新商品につながるアイデアを提案したい。」と語る。一息ついて秋冬商品の開発に向けてシフトチェンジ、自分たちの成長を実感すると同時に、期待に応え、いい商品を生み出したいという強い思いを新たにしている。



## ROBOX

### 僕たちのわくわくを子どもたちに

機構・回路・プログラムを複合的に学べるロボット製作キットの開発を目指す本年度のROBOX。第1回のものづくり教室では、線をたどって自走するラインレースの機能を持つ車型の探査ロボットの製作に取り組んだ。機構、回路、プログラムの3つの要素をバランスよく組み合わせる教室になるよう、メンバーの苦心は続く。山田 憲さん(同志社大学理工学部2年次生)は、新たなモータ部品使用の提案や予算内でいかに安全で操作しやすいコントローラにするかなど、少しでも良いものにするためにこだわった、と語る。教室当日には参加する子供たちの声に熱心に耳を傾け、全力で教室に臨む姿が印象的だ。また、子どもたちが楽しく簡単にプログラミングに取り組めるよう、ブロックをつないで視覚的にプログラミングができるオリジナルの「ROBOX Programming Recipe」を開発した。「第1回の教室直前は、授業以外に毎日5時間以上開発作業に費やした。より使いやすいものにするために、まだまだ改善していきたい。」と開発を担当した尾崎信利さん(同志社大学理工学部2年次生)は話す。本年度の教室はあと2回、ますます進化を遂げそうだ。



## DIT

### 同志社のためのサービスを

プログラマーやデザイナーが、限られた時間で技術とアイデアをチームで競う開発イベント「ハッカソン」。DITでは、同志社の学生が気軽に参加できるハッカソンを目指し、「DHacks」を開催した。これまで自分たちが参加してきたハッカソンイベント、感動やワクワク感とともに感じた物足りなさややりづらさを解消したい。協賛企業探しや交渉、参加者募集に当日プログラム運営まで、4年生のメンターメンバーを中心に準備を進めた。

また、春から続けてきた勉強会だが、今回のイベントには、勉強会に参加し、腕を磨いてきた1、2年生のメンバーも参加する。これまでの活動の成果を発揮する場としても注目のイベントとなった。参加したメンバーの一人、吉田彪雅さん(同志社大学理工学部1年次生)は「春からのたった半年の経験でちゃんとできるのか、正直不安があった。実際、予想外の動きやバグの修正に手こずることもあったが、これまでがんばってきた分、力試しのいい機会だったし、本当に楽しかった。先輩たちを追い越す勢いでますますがんばっていきたい!」と語った。イベントを機にやる気が増したメンバー達の、更なる成長が楽しみだ。



## 同志社スポーツ応援隊

### 一体感を楽しむ伝統の「同立戦」バスツアー

同志社の学生は大学スポーツに興味を持っているのか? どのようなきっかけづくりが必要か? 硬式野球やラグビーなどの大学スポーツを盛り上げようと立ち上がったチーム。伝統ある硬式野球の「同立戦」を取り上げ、オリジナルバスツアーでスタジアムへの動員をはかる。大学のスポーツ支援課をはじめ、クラブ本体や相対する立命館大学の関係団体との調整も欠かせない。

ワンコインでキャンパスからスタジアムへ。応援グッズのプレゼントもありお得なツアーだ。みんなで行くからおもしろい! 「プロ野球は家でテレビ観戦するけど、球場に行くほどでは・・・」そんな人たちも楽しくスタジアムへ運ぶバスツアー、特別な一体感、新たなつながりが生まれる、とっておきのイベントは10月24日(土)、ぜひ参加してほしい。

秋からはラグビーもシーズンを迎える。「ラグビー」を身近に感じてもらうところから取り組もうと、キャンパス内でのイベントも企画されている。アツイスポーツの秋になりそうだ。



## エコ学@京田辺

### 私たちが伝える「環境」とは？

未来を担う子どもたちと環境について学び、小学生向けの新たな環境教材、プログラムの開発を目指す。京田辺市の2つの小学校での授業を担当させていただくことが決まったが、「環境」とひとことと言っても、その範囲は広く、子どもたちに何を伝えたいのか、何を考えてほしいのか、どのように表現すればいいか、スタート当初から悩みは尽きない。

1学期には、草内小学校4年生2クラスを対象に、ゴミや電気、水など自分たちの生活と環境を考える授業を行った。授業をしてはじめて気づくこともたくさんあり、貴重な経験だった。実際に小学生と向き合っ、いきいきとした表情に元気をもらう反面、楽しく体験しつつも、児童の学びにつなげる難しさや自分たちの力不足を実感した。

2学期には普賢寺小学校での授業が控えている。「自然」をテーマに、各回にそれぞれ小さな「体験」を用意している。新たなテーマでの授業展開に備え、改めて勉強し直し、実験を重ねて万全の準備で臨む。



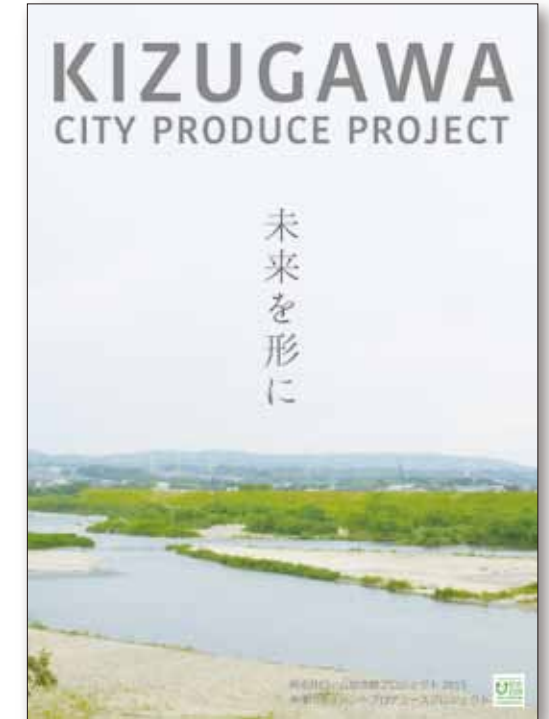
## 木津川市イベントプロデュースプロジェクト

### まちに笑顔をつくりだす！

木津川市の公立中学校5校の各チームメンバーと取り組むまちおこしプロジェクト。昨年度のプロジェクトで木津川市長へ伝えた「5年後の木津川市」の提言をベースに各校チームでまちを元気にするアイデアを出し、企画を実践する。メンバーはプロデューサーとしてそれぞれの成功を目指して日々チャレンジを重ねている。

8月20日には、メンバー全員が同志社ローム記念館に集結、中間報告を行った。新田住民の交流を生み出す竹灯籠イベントをはじめ、お寺や石仏などをめぐるツアーや英語版まちあるきマップ制作など、海外からの観光客を増やす企画、まちの魅力を市外に発信するキャラバンやトータルデザインの開発など5つの企画が進行中。

留学生と市民が交流できるツアー「地元中学生と巡る！国際ナショナル“きづな旅”」の実施も11月28日(土)に決定し、参加者を募集中。イオンモール高の原での報告会も12月19日(土)に予定されている。ひとつひとつを着実に積み重ねてこそこのプロデュース、まちの人たちとの折衝や中学生、先生方とのコミュニケーションなど、メンバーは日々奔走している。



## VR Agency

### 宇宙旅行のリアルさを追及

「宇宙旅行」、子どもも大人もわくわくすることばである。このプロジェクトでは、VR(バーチャルリアリティ=仮想現実)を利用して誰もが宇宙旅行を疑似体験できるスマートフォン向けアプリの開発を目指している。気軽さを重視し、VRを表示する装置も、スマートフォンに装着するタイプの簡易ヘッドマウントディスプレイを使う。ゲーム感覚で楽しめると同時に、解説も充実した大人の知的好奇心を満たす仕上がりを考えている。上級生メンバーを中心に、夏までにα版を制作、メキメキ力つけた新メンバーも徐々に開発に加わっている。初めて使うゲームエンジンに四苦八苦することもあり、スケジュールに少し遅れも見られたがそれも挽回。同志社クローバー祭では、アプリの体験コーナーを設置する予定で、更なる改良を目指している。新たにヘッドトラッキングの開発を任せられた竹永勇真さん(同志社大学理工学部1年次生)は、「リアルな宇宙を表現するため、技術を磨くだけでなく実際にプラネタリウムや本物の星空を見に行ったりもしている。日々の活動を通してプログラミング技術やコミュニケーション能力が向上したと実感。残り半年、もっと意欲的に活動していきたい。」と語る。



## スタジオZero

### プロジェクトの環境をつくる

この春、卒業式ぎりぎりまで活動を支えてくれた4年生がいなくなり、代わって20名を超える新メンバーが加わった。大所帯となったローム記念館プロジェクトを支えるスタジオZeroにもパワーアップが望まれる。新メンバー募集の交流会企画にはじまり、ウェイクアッププログラム、メンバー向け広報誌「mini ippo」の制作、ステップアップキャンプの企画運営と新メンバーも即実践だ。劇場空間の機材操作をマスターしたり、広報物などを制作するデザインソフトを勉強したり、企画書や議事録の作成を担当したり・・・先輩たちの背中を見ながら自分がどの分野でチームや他のプロジェクトの力になれるかをつかむ半年。常に動き続けるプロジェクトのサポートとは何なのか、常に答えを探しながらの活動だ。秋からはリーダーも代わって新体制となる。歴史を受け継ぎつつ、自分たちだからこそできることを模索する。馬場睦也さん(同志社大学文化情報学部2年次生)は、「これまで行ってきたサポートをよりよくしていくのはもちろん、Webサイトのリニューアルや新たなサポートのしくみづくりなど、メンバーの持ち味を活かし、新しいことにチャレンジして活動の幅を広げていきたい。」と意気込みを語る。



Pick up!

## 中間報告会 9月26日(土)



活動期間も折り返しを迎えるこの時期、館内が急に慌しい空気に包まれる。中間報告会では、各チームがこれまでの活動経過や今後の見通しを報告しあう。プレゼンテーションの練習や資料整理など、それぞれ持ち味を活かした報告ができるよう準備が進められた。審査員の目を引く、他のプロジェクトに差を付ける見せ方も大事だが、チーム編成や役割分担がうまくいっているか、夏期休暇をどんな風に過ごしたのか、活動の実態も見えてくる中間報告会、後半はメンバーが個別に対応する質疑応答もあり、お互いの悩みを相談しあう場面も。外部審査員やOP (Old Project-member) にも参加いただき、多くのコメント、アドバイスをいただいた。半日にわたる報告会は「活動をしているとさまざまな課題が出てくる。その解決に奔走している間に、何のためにやっているのかがぼやけてしまうこともある。今一度目標を再確認して後半の活動に励んでほしい」との久保委員長のことばで締めくくられた。



## Event Report

# イベント報告 2015年4月～2015年9月



**同志社ローム記念館プロジェクト「プロジェクト交流会」**  
4月16日(木)  
新メンバー歓迎イベント。各プロジェクトメンバーとの交流を図った。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「スタジオZero」



**草小小学校 環境授業(第2回)ーゴミ問題についてー**  
5月19日(火)  
全10回の環境教育授業の第2回。リサイクル工作などに取り組んだ。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「えこ学@京田辺」



**play\_play\_play**  
5月28日(木)  
主催：同志社女子大学  
現代社会学部 現代こども学科  
メディアハンド



**プログラム「電柱エレミの恋」映画上映メイキングトーク・展示会**  
6月11日(木)  
主催：同志社大学  
学生支援センター



**フェアトレードコーヒーを飲もう**  
7月20日(月)  
主催：グローバル・コミュニケーション学部  
Seminar Project Fair Trade

## イベント

- 合気道部 新入生歓迎演武  
4月2日(木)
- チアリーダー部 新歓ステージ  
4月2日(木)
- TA(ティーチング・アシスタント)研修会  
4月7日(火)、9日(木)
- 主催：同志社大学 学習支援・教育開発センター
- 同志社クローバー祭実行スタッフ 2015年度スタッフ募集説明会  
4月13日(月)
- 主催：同志社クローバー祭実行スタッフ
- DEP活動紹介・映画鑑賞会  
4月15日(水)
- 主催：同志社エコプロジェクト
- 【木津川市プロデュースプロジェクト】キックオフ・ミーティング  
5月8日(金)
- 木津川市内5中学校の中学生メンバーと大学生チームとの初顔合わせ。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「木津川市イベントプロデュースプロジェクト」
- ステップアッププログラム「SMBCプロミスローン・クレジット・契約についての話」  
5月18日(月)
- 主催：同志社大学 京田辺校地学生支援課
- NICE国際ボランティアセミナー<先輩に聞こう>  
5月18日(月)
- 主催：同志社大学 学生支援センター
- 大学スポーツアンケート調査 特設ブース  
5月18日(月)～22日(金)
- 硬式野球やラグビーなど、大学生の大学スポーツに関する意識調査を実施。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「同志社スポーツ応援隊」
- ステップアッププログラム「京都府山城振興局 消費者トラブル対処法」  
5月19日(火)
- 主催：同志社大学 京田辺校地学生支援課
- Doshisha Spirit Week 2015春  
6月1日(月)
- 主催：同志社大学 キリスト教文化センター
- Japanophile or Japoniste?  
6月10日(水)
- 主催：同志社大学 学生支援センター
- 企業が求めるグローバル人材とはー企業研修担当者が語るTOEICの重要性ー  
6月15日(月)
- 主催：同志社大学 国際化推進室
- TOEIC夏休み集中対策講座説明会  
6月17日(水)
- 主催：同志社大学 国際化推進室
- ものづくり教室  
6月28日(日)、7月12日(日)
- 事前申込制のロボットづくり教室。全2回の教室で「探査ロボット」を制作した。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「ROBOX」
- 2015年度プロジェクト科目春学期成果報告会  
7月26日(日)
- 主催：同志社大学 今出川校地教務課内 プロジェクト科目検討部会事務局
- 【木津川市プロデュースプロジェクト】合同ミーティング  
8月20日(木)
- 5中学校の企画の中間報告を行い、企画の実施に向けて活動を進めた。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「木津川市イベントプロデュースプロジェクト」
- DHacks  
9月10日(木)～11日(金)
- エンジニア育成プロジェクトが、同志社のためのwebアプリを開発するハッカソンを開催。  
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「DIT」
- 2015年度同志社ローム記念館プロジェクト中間報告会  
9月26日(土)
- 主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会
- TOEIC/TOEFLテスト対策講座説明会  
9月28日(月)
- 主催：同志社大学 国際課

## 展示

- フォーミュラカー展示  
4月6日(月)～
- 主催：同志社大学 機械研究会
- 浴衣で夕涼み 省エネ啓発パネル展示  
7月3日(金)～14日(火)
- 主催：同志社エコプロジェクト
- 同立戦バスツアー 申込ブース設置  
7月1日(水)～24日(金)
- 主催：同志社ローム記念館プロジェクト「同志社スポーツ応援隊」